

乳がん

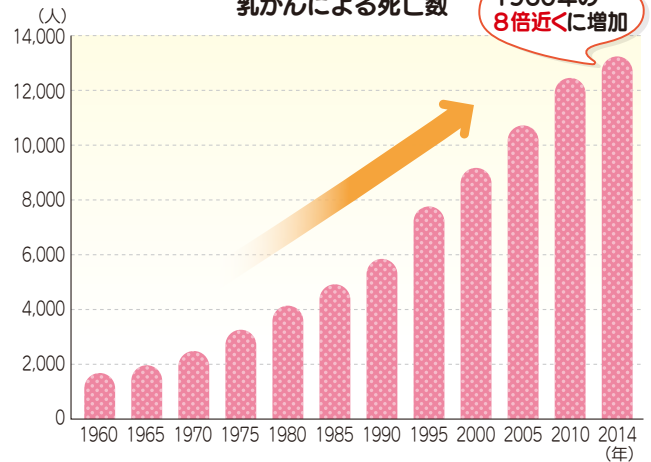


乳がんは「乳腺」にできる悪性腫瘍です。発生や進行には女性ホルモンが影響しており、女性のライフサイクルや生活習慣の変化から、近年大幅に増加しています。

乳がんの危険因子

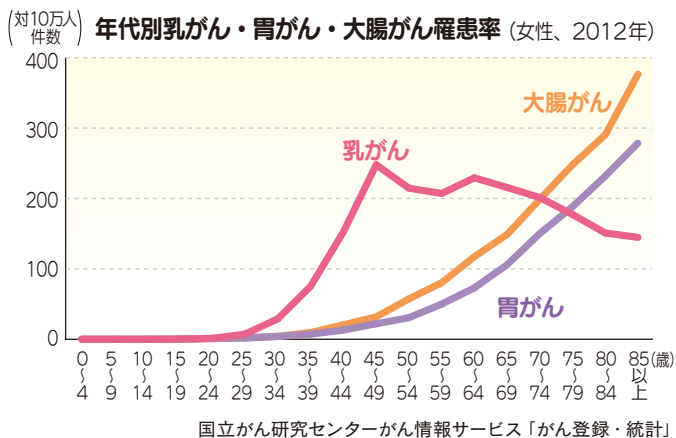
- △初潮が早い・閉経が遅い △妊娠や出産経験がない
- △初産年齢が遅い △授乳歴がない △閉経後のホルモン補充療法
- △肥満(閉経後)、飲酒、喫煙 △高身長 他

乳がんによる死亡数

1960年の
8倍近くに増加

国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

40歳から50歳代が多い



国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

乳がんは、女性がかかるがんでもっとも多いがんです。胃がんや大腸がんは高齢になるほどかかりやすいがんですが、乳がんは40歳から50歳代と比較的若い年代から多いのが特徴です。

乳がんは早期に発見して治療をすれば予後がよいため、症状が出る前に検診で早期発見することが大切です。

症状として多いのは、乳房のしこり、乳頭からの分泌液、乳房の痛みなどです

気になる症状があったら、40歳未満の方でも受診しましょう



乳がん検診を受けましょう

国では、40歳以上の女性に、問診およびマンモグラフィ(乳房X線検査)による乳がん検診を、2年に1度受診することをすすめています。遺伝性のがん(※)が疑われる場合は40歳未満でも検診を受けましょう。また、気になる症状がある場合は、検診を待たずに早めに専門医を受診することが必要です。乳がん検診では、マンモグラフィのほか、超音波(エコー)検査なども行われています。

(※) 家系内に若くしてがんにかかったり、何度もがんにかかった人がいる、また特定のがんが多く発生しているなどの場合。

マンモグラフィ(乳房X線検査)

2枚の板で乳房を片方ずつ挟んで撮影します。月経前の1週間を避けると痛みが少ないといわれます。



超音波(エコー)検査

乳房表面にゼリーを塗って、その上から器具をあてます。痛みはなく、X線を使わないので、妊娠中や妊娠の可能性のある人でも検査が受けられます。乳腺が発達した若い人に向いています。



コラム

～日本の女性の皆さま、もっと「乳がん」と「子宮がん」に関心を!!

通常、がんの多くは高齢になるほど発症リスクが高まりますが、女性特有のがんは前述のように若年化が進み、20～40歳代で発症するケースが急増しています。

女性特有のがんには、女性ホルモンの影響など避けようのないものもありますが、生活習慣にも危険因子があることは、他のがんと変わりありません。つまり、生活習慣の

改善でもリスクを減らすことができるわけです。なかでも重要なのは、「禁煙」です。喫煙習慣のある人は、直ちに禁煙を実行しましょう。また、食生活では、動物性脂肪を控え、野菜や果物を積極的にとるようにして、バランスのよい食事を心がけましょう。お酒は適量を守り、特に乳がんの危険因子を持っている人はできるだけ控え目にしましょう。また、